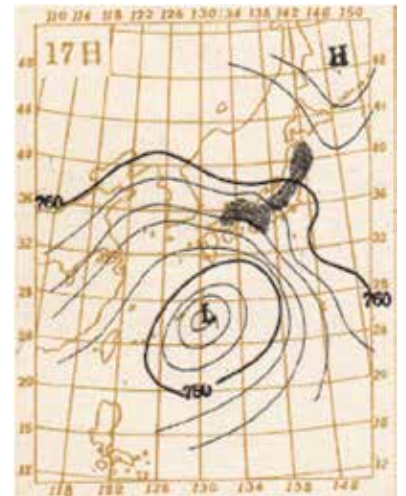
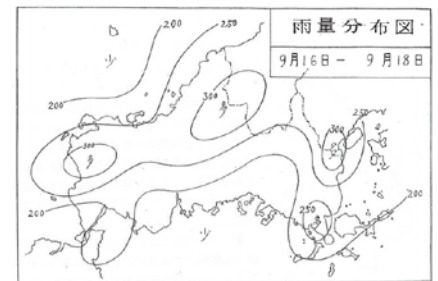


台風経路図



天気図(9月17日18時)



雨量分布図(9月16日~18日)

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 枕崎台風は、9月17日14時頃鹿児島県枕崎市付近に上陸し、九州東部、愛媛県、広島県を経て、18日午前6時ごろ能登半島をかすめ、本州を横断して太平洋上にいった。 枕崎(鹿児島県枕崎市)で観測された最低気圧916.1hPaは、室戸台風の際に室戸岬(高知県室戸市)で観測された911.6hPa(当時の記録として、もっとも低い気圧)に次ぐ低い値となった。 					
	最低気圧(hPa)	969.8(下関)	最大風速(m/s)	23.2(下関)	最大瞬間風速(m/s)	37.1(下関)
	総降水量(mm)	160.1(下関)	日降水量(mm)	146.7(下関)		
被災場所	県東部、大津郡					
被害の規模	(人的被害)死者427人、行方不明者274人、負傷者283人 (住家被害)流失501棟、全壊1,330棟、半壊2,760棟、床上浸水12,679棟、床下浸水18,442棟 (その他被害)道路損壊1,108ヶ所、橋りょう流失337ヶ所、船舶の流失・沈没745隻 など <被害額総計>約2億7700万円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 超大型の台風だったこと、台風の接近で秋雨前線の活動が活発になったこと、終戦直後のことで気象情報が少なく防災体制も不十分であったことから、被害が拡大した。 岩国市や大津郡では降水量200~300mm以上となり、島田川などで洪水が発生した。 台風の勢力と犠牲者の多さから室戸台風や伊勢湾台風と並ぶ「昭和の三大台風」の一つに挙げられる。全国の死者・行方不明者数3,756人の半数強は、洪水や土砂災害が頻発した広島県に集中し、広島県では死者・行方不明者が2,012人に及んだ。 					



たいふう せつせん あきさめぜんせん
 台風の接近で秋雨前線の活動が活発になったことから大雨になったんだ。
 ばいうぜんせん ていたい
 梅雨前線や秋雨前線が停滞しているときに台風が近づくと大雨になるおそれがあるから、気象情報に注意してね。

体験談

『枕崎台風の襲来を受けて(思い出)』 岩国市 女性

(前略) 終戦後少し落ち着いたかのように思われたが、九月には何日も降り続いた雨。のちの中に突然の台風が襲ったのです。柱野駅先の鉄橋が流れ更に増水が一度に高まったのでした。

濁流は道路を越え家はメキメキと傾きはじめた。 (中略)

外は猛獣が吼え盛るようなゴーゴーとすごい。恐怖の中で唯々脅えるばかりでした。 (中略)

その時隣のおじさんが自らの家へ連れて行くから一人ずつ小さいのから出すように言われ、縁側からまず赤ちゃんを姉が抱き、母と二人で縁側に出ましたがもう縁側は流されて二人共濁流へ落ち、赤ちゃんは流されてしまったのです。

母も姉も落ち込み姿も見えず私達子供は泣き叫びました。すると弟と私が母と姉の手をつかみ引き上げられたのです。

それこそ神様の御加護を知りました。母は「みんな手をつなぎ一緒に流されたんだよ」と…

座っている畳はプカーッと浮き、水はもう口まで来ています。もう大分流れているようでした。

私は一心に神様にお祈りをしました、「どうか命だけはお助けください」と…

少し経った後、水が少しずつ減ってきました。母が「助かった」と云い、みんな喜びました。雨も小降りになりましたが風が強くなりみんな体を寄せ合って夜が明けるのを待ちました。

家のものは全部流れましたが命は助かりました。これは大きないちじくの木が支えてくれたのです。この台風で柱野は三十六人、御庄も六十八人が死亡したと聞きました。蓄えていた食料も全部流され田畑も全滅し食料もなく食べられるものは何でも、麦わらまで粉にし、僅かな小麦と混ぜ食べました。

その後一ヶ月経った頃父が復員しました。汽車も不通のため、藤生駅から大きな荷物を背負って川もこぼって帰ったとのこと。 (後略)

西川暁『御庄ウォーク』より転載

体験談

『岩国御庄地区の被害』 岩国市 男性

枕崎台風の夜、家には九人の家族と来客一人がいた。

今までの経験から大したことはないと思って寝ていたところ、午後九時ごろ岩徳線の鉄橋が墜落したため、それまでに溜まっていた大量の水が一気に流出したので、水は堤防を越えて進入したので忽ち決壊し御庄盆地は濁流と流木で満水となり軒下まで浸水した。

これがため家は浮き流れそうになったので納屋の屋根に上がりそれから母屋の方に移った。

暫くして家は流れ出した。御庄盆地は流れが緩やかであったが錦川の本流に出ると家は分解するのではないかという不安があったので、家族はみんな必死で屋根に取りついていて、そのまま本流に出たが水は予想していたほど出ていないので分解の心配はなかった。

それはそのはずで上流から流れてくるまでに四時間はかかるからである。多田、関戸、大内迫を通過して錦帯橋の下を無事に通り抜けて臥竜橋、鉄橋、愛宕橋を経て牛野谷の井堰に差しかかった時、コンクリートに激突したため、家は分解して十人はバラバラになって激流に放り出された。

ああこれまでかと思ったが幸い近くを流れていた丸太に取りつき、必死で流れているうちに母と一緒に、荒海の瀬戸内海に出て一晩中漂流、夜明けとともに波はおさまったが疲れは増してきた。

しかし、救助に来てくれそうな気配はない。疲れ切って眠くなり木から手が離れそうになる。母は眠ると死ぬと云って励ましてくれた。十八日の十二時頃大島の東端を漂流中伊保田村の小藪初太郎さんに救助されたので、命拾いした。この時は己に死の寸前であった。 (中略)

帰って見ると自分の家も近所の家もない。残った家も廃家同様に傾いている堤防は各所で決壊し田圃には大きな石や木がゴロゴロして荒廃していた。洪水の猛威に茫然となった。 (後略)

西川暁『御庄ウォーク』より転載

関係する石碑



いわくにし ゆう まくらざきたいふう しんすい すいい
 岩国市由宇には、枕崎台風が接近した時の浸水水位が表示されているよ。

【枕崎台風時の水位】

岩国市由宇では、由宇川や室岡川などが氾濫し、死者・行方不明者42人、家屋の流失・全壊・半壊151戸、床上浸水545戸、床下浸水655戸という大きな被害となったことから、当時の浸水水位が表示されている。



枕崎台風接近時の浸水水位

トピックス

台風

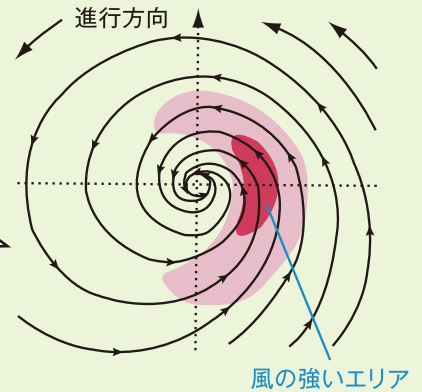


ほくせいたいへいよう そんざい ねったいていきあつ さいだいふうそく
 北西太平洋又は南シナ海に存在する「熱帯低気圧」のうち、最大風速がおおよそ
 17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼ぶんだよ。

勢力の強い台風が、九州の西海上を北上し、対馬海峡を通過したときや長崎県に上陸した後、北東に進んだ場合には、山口県に大きな被害が発生している。

台風が、このようなコースをとれば、猛烈な風により瀬戸内海や豊後水道から海水が吹き寄せられ、高潮による災害も起こりやすくなる。

反時計回りに風が吹き込む台風の右(東)半分は風が強くなる。



【気象庁による台風の表現】

台風の「大きさ」は風速15m/s以上の強風域の半径で、「強さ」は中心付近の最大風速で決定する。

大きさ

階級	強風域の半径
大型	500km 以上～800km 未満
超大型	800km 以上

強さ

階級	最大風速
強い	33m/s 以上～44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上～54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上